

No	個別最適	協同的	家庭学習	用途	対象生徒	教科	施策名	アクション説明	ねらい
A-1	•			理解促進	授業内での学習をより深めたい生徒	技術	<a href="#">家でプログラミング</a>	クラスルームに授業で扱ったプログラム例を載ることで自宅でも学習可能とする。	復習・学習意欲の継続
A-2	•			理解促進	作品のイメージができない生徒/作業の手順が一度の説明では覚えられない生徒	技術家庭	<a href="#">作品や手順の視覚化</a>	完成品や手順を提示し、作業を視覚化する。	イメージしやすくしたり手順を何度も見返せるようにしたりする
A-3	•	•		理解促進	歴史の知識が豊富な生徒/さほど知識がない生徒	社会	<a href="#">歴史百人一首</a>	歴史上の人物の功績を基にした百人一首をスライドにて実施する。句を画面上に表示し、視覚優位の生徒にも配慮する。(個人戦、グループ対戦、1人対複数などの変則対戦も可能である。)	既習事項の復習/思考力・判断力の育成
A-4	•	•		理解促進	授業にいる全ての生徒	音楽	<a href="#">イメージつなぎカード</a>	音のつながり方や俳句のイメージなどの言葉やイラストを表記したヒントカードを、各グループに1セット配布する。	音のつながり方とイメージとの関わりが合うようカードを並べ、視覚的に理解させる
A-5	•	•		理解促進	視覚的なモデルを必要とする生徒	保健体育	<a href="#">プロジェクター活用</a>	技の習得時、プロジェクターで自分と同じ大きさのモデルを投影する。	大きく映し出された参考動画、効率的な技の習得につなげる。
A-6	•	•	•	理解促進	空間認知能力が低い生徒	数学	<a href="#">回して見える数学</a>	GeoGebraを活用し、「図形が回転して立体になる様子」をアニメーションで提示する。これにより、イメージを共有する。	空間図形のイメージを視覚的に捉えさせる
A-7	•	•	•	理解促進	理解度が低い生徒	理科	<a href="#">フローチャート</a>	演習問題の求め方を示すフローチャートを提示する。	解き方の手順を図で表し、生徒のつまずきを分かりやすくする
A-8	•			理解促進	授業での気づきから考えを深めようとする生徒	道徳	<a href="#">段階別内省</a>	終末の発問を段階別に用意し、思考を促すようにする。	授業での多様な気づきを言語化すること
A-9	•	•		理解促進	授業での気づきから考えを深めようとする生徒	総合	<a href="#">職場体験報告会</a>	8年生が7年生に向けて職場体験での学びをプレゼンテーションする。	自身の学びについて他者に分かりやすく伝えることができる
B-1		•		意欲向上	グループワークが苦手で孤立しがちな生徒/書字が苦手で自ら書く作業をしない生徒	国語	<a href="#">さんずいリレー</a>	チームを組み、「さんずい」が部首となる漢字を、一つのプリントに思いつく限り協力して書き込む。ルールの提示を明確化し、チームづくりに向けた雰囲気づくりを重要視して実施する。	チームビルディング/書字への意欲向上
B-2	•	•		意欲向上	能力差(性差・技能差等)がある学習集団	保健体育	<a href="#">共生の視点に立った学習の工夫</a>	能力差が出やすい単元で、単元の特性を活かした誰でも楽しめる内容やルールを採用する。	能力差があっても単元の特性を捉え、積極的・自主的に取り組むことができる
B-3	•	•		意欲向上	作業のやり方や道具の使い方が分からず遅れてしまう生徒	技術家庭	<a href="#">進捗状況別座席</a>	進捗状況に応じ、作業を行う位置を変える。	意欲向上・生徒同士の協働
B-4	•	•	•	意欲向上	見通しをもつことが苦手な生徒	保健体育	<a href="#">学習内容が体系的に整理された資料</a>	各単元ごとに学習内容が体系的に整理された「学習ノート」をデータで共有し、実施することの見える化を図る。	学習内容の見える化を図り、積極的・自主的な活動を促す

No	個別最適	協同的	家庭学習	用途	対象生徒	教科	施策名	アクション説明	ねらい
B-5	●	●	●	意欲向上	年齢・性別関係なく全ての生徒	特別活動	<a href="#">運動会種目：組ダンス</a>	本校では多くの中学校が運動会種目や行進で求める「より速く、より強く、よりそろえて」以上に「より楽しく、多様性を認めて」を大事にしており、その象徴的な種目の1つが「組ダンス」である。	生徒が違いを認め合いながらダンスを楽しむことができる
C-1	●			知識定着	全ての生徒	数学	<a href="#">板書配信</a>	その日の授業内容の板書を写真で記録し、クラスルームで共有する。	授業内容を見返すことができる
C-2	●	●		知識定着	気候の学習内容の定着が十分なされていいる生徒/不十分な生徒	社会	<a href="#">気候組み合わせゲーム</a>	グループ対抗でカードを引き、教科書で扱う気候の1月と7月の気温・降水量の組み合わせを作成する。また、どの気候帯と気候区であるかを判断させる。	気候の学習内容の定着/協働学習
C-3	●		●	知識定着	自身の学びを深めようとしている生徒	数学	<a href="#">学習サイト作成</a>	教科書付属のGoogleフォームやGemini、NotebookLM、GeoGebraなどを活用し、学習サイトを作成する。	授業内容を振り返ったり、自力で学ぼうとしたりする生徒の支援
D-1	●			段階的学習	内容をまとめることが苦手な生徒を中心とした全ての生徒	国語	<a href="#">段階的作文練習</a>	レベル別に作文の課題(内容・文字数など)を設定し、生徒はそれを選択して取り組む。自分で思考して書くことや、作文の型に沿って文章を書くこと、穴埋めで作文するなど、生徒の状況に応じた選択肢を用意する。	個に応じた学習活動の充実。
D-2	●			段階的学習	数学が苦手な生徒/数学が得意な生徒	数学	<a href="#">段階別の課題設定</a>	入門から上級まで、レベル別の課題を用意する。生徒は自分の理解度に合わせて課題に取り組む。証明分野では、空欄補充や間違い探しなど段階的な内容とする。	生徒が自分のペースで取り組めるようにする
D-3	●			段階的学習	全ての生徒	保健体育	<a href="#">思考・判断・表現テスト</a>	授業の内容理解を図るため、フォームを使って思考・判断・表現テスト(記述問題)を実施する。	授業の内容を理解しているか確認する
D-4	●			段階的学習	全ての生徒	家庭	<a href="#">実技テストのデータ提出</a>	授業内での実技の評価を公平かつ各自のペースで実施できるようChromebookの動画撮影機能を活用し実技テストを実施する。	実技テストを自分のペースで実施できる
D-5	●	●		段階的学習	全ての生徒	数学	<a href="#">習熟度別座席配置</a>	座席配置を苦手集団・標準集団・得意集団で分ける。各集団に対し、苦手集団には入門問題で個別指導、標準集団には基礎問題の見直しや計算ミスを中心に机間指導、得意集団には思考力問題でヒントを出し協働解決を促す。	一人ひとりに適した指導、学習形態
D-6	●	●		段階的学習	実験が苦手な生徒/得意な生徒	理科	<a href="#">理解度別実験班</a>	小テストや定期考査の理解度に応じ、実験の班を編成する。	分からぬところを共有し、協力して実験に望むことができる。
D-7	●		●	段階的学習	全ての生徒	社会	<a href="#">学習ガイド</a>	定期考査や長期休業前に、各生徒の学力やめざす目標に応じた、実践すべき学習を記載した学習ガイドを配布する。	個に応じた家庭学習の充実
D-8	●		●	段階的学習	自身の学びを深めようとしている生徒(苦手な生徒にも効果的)	数学	<a href="#">選択制大問別入試対策</a>	都立入試の過去問を大問別にまとめた冊子を作成する。生徒が家庭学習や授業で重点を置く単元に取り組めるようにする。(自己調整学習)	自分が真に対策すべき内容を考えさせ、自己決定させ、意欲向上を図る
E-1	●			パーソナライズ	作文が得意が得意な生徒/作文が苦手な生徒	国語	<a href="#">選択作文</a>	レベル別に作文の課題を設定し、提示する。生徒はそれぞれが書きたい、または書けそうだ、と思う課題を選択し作文に取り組む。	個に応じた課題の充実

No	個別最適	協同的	家庭学習	用途	対象生徒	教科	施策名	アクション説明	ねらい
E-2	●	●		パーソナライズ	手動・電動工具に興味がある生徒/製作に自信のない生徒	技術	<a href="#">練習と道具の選択</a>	不要となった材料で練習を行い、自分に合った道具を選択させる。	自信をもって作業を行えるようにする・成功体験を積む
E-3	●	●		パーソナライズ	数学が苦手な生徒	数学	<a href="#">学び方のセレクト</a>	事前に単元全体のめあてと毎時間の「めあて」を共有する。その時間の学び方を、①講義・演習(従来型授業)と②自学・協働(教材・進度を自己選択)から生徒に選択させる。	生徒が主体的に学習に取り組む力を育む
E-4	●	●		パーソナライズ	能力差がある学習集団	保健体育	<a href="#">グループ学習</a>	種目の特性に合わせた階級別・技能別・能力別等のグループ活動を行う。	自己やチームの課題を発見し、伝え合うことで協調性や主体性を高めることができる
E-5	●		●	パーソナライズ	学びを深めようとする生徒	英語	<a href="#">パフォーマンステスト</a>	1つのテーマについて調べ、スライド等を用いて自己表現をさせる。パフォーマンステストに向けて、英文の表現や構成のアドバイスを個々に行う。生徒は家庭でも練習することが可能である。	授業中だけでなく、自分のペースに合わせて準備をすることができます
E-6	●		●	パーソナライズ	特定の学習内容に苦手意識を感じている生徒/学習内容のさらなる定着を求める生徒	社会	<a href="#">自己選択型単元学習</a>	単元のまとめごとの学習映像と学習アプリを配信する。生徒自身の学習ニーズに合わせて選択し、学習できる機会を設定する。	学習ニーズに合わせた既習事項の確認・発展学習の機会を保障
E-7	●		●	パーソナライズ	学びを深めようとする生徒	数学	<a href="#">質問フォーム</a>	クラスルームに質問フォームを設置する。授業中のみならず家庭での学習で生じた疑問を把握し、個別のアドバイスを行う。	授業中に質問ができない生徒の学習を支援する
E-8	●		●	パーソナライズ	全ての生徒	理科	<a href="#">個別の課題提示</a>	授業の振り返りフォームに生徒が入力後、めあての達成度(理解度)に応じて、個に応じた課題が表示される仕組みである。	生徒の達成度(理解度)にあった、個別の課題を提示する
E-9	●		●	パーソナライズ	授業で発言や質問がしづらい生徒	美術	<a href="#">なんでもフォーム</a>	振り返りフォームに質問や気になることを自由記述する項目を設けて、個別に指導または返信する仕組みを構築している。	授業内で拾いきれない生徒の質問等を拾い、個別最適な学びを実現する
E-10	●		●	パーソナライズ	学びを深めようとする生徒	英語	<a href="#">振り返りフォーム</a>	毎授業後に振り返りフォームを用いて、授業の理解度や質問を入力させ、個々の疑問を把握する。そして個別にアドバイスを行う。	授業中に質問ができない生徒の学習を支援する
E-11	●		●	パーソナライズ	自分の力に合わせた学習を望む生徒	国語	<a href="#">Gemini × 学力向上</a>	GeminiのCanvas機能とリアクトを使用し、擬似的なアプリケーションを作成する。学習内容を記入し参考資料を読み込ませることで、AIが授業内容に合わせた4段階のレベルで問題を作成する。作成された問題を用いて、プリントを作成する。	学習者のレベルに合わせた教材を自動生成し、働き方改革を促進
E-12	●	●	●	パーソナライズ	能力差がある学習集団	保健体育	<a href="#">課題解決のセレクト</a>	技能差のある単元における技能別学習・コース選択学習を実施する。	合理的な解決に向けて、自己の課題に合った練習場所を選択できる
E-13	●	●	●	パーソナライズ	全ての生徒	全教科	<a href="#">長期休業中の宿題原則無</a>	塾などすでに学校の学習内容を先取りしている生徒にとっては一律の共通課題は「時間の無駄」を強いる。一方、学力不振の生徒にとっては、精神的負担となり、登校しぶりにつながることもある。そこで、長期休業中の家庭学習も個別最適化を図る。	長期休業中も個別最適な学びを行うことができる

No	個別最適	協同的	家庭学習	用途	対象生徒	教科	施策名	アクション説明	ねらい
F-1		●		個性を活かす	話し合いやグループワークに積極的に参加できない状態の生徒	国語	<a href="#">グルーピング調査</a>	実施するグループワークの作業の中で、生徒の得意・苦手をフォームで調査する。調査内容を基に、得意な要素が生かされるようグルーピングを行う。	自分の力をいかし、グループワークに参加を促す
F-2		●		個性を活かす	授業に参加する生徒	美術	<a href="#">鑑賞授業用班編成</a>	作品の制作進度や人間関係を基に美術室の席やグループを構成する。グループは、基本的に3名から4名での編成を想定している。	作品の良さや味わいを対話的に鑑賞させるためのグループ編成をする
F-3		●		個性を活かす	自分の考えをもつこどが苦手な生徒	音楽	<a href="#">グループ構成</a>	生徒同士のコミュニケーションや意見交換を通して、自分の考えや感じたことを言葉に表すことができるようグループを構成する。	生徒間のコミュニケーションや意見交換を通して自分の考えや感じたことを言葉に表す
F-4		●		個性を活かす	苦手生徒を中心とした全ての生徒	数学	<a href="#">教え合いを意図した座席配置</a>	比較的得意な生徒をばらけさせ、苦手な生徒の周囲に得意な生徒が配置されるよう座席を配置する。	苦手生徒への指導のしやすさ、得意生徒の理解度向上
F-5		●		個性を活かす	授業に参加している全ての生徒	英語	<a href="#">ペア・グループ構成</a>	習熟度および人間関係をもとに、ペアやグループを構成する。	教え合いや活発なコミュニケーション活動を通して全員が授業に参加できるようにする
G-1	●			リスク回避	人を傷つける危険性のある道具を使う授業を受ける生徒	美術	<a href="#">刃物ナンバリング</a>	ハサミやカッターに番号を振り、対応する出席番号の生徒に使わせる。	刃物の紛失を防止し、刃物を扱うことに対して生徒一人ひとりに責任感を持たせる
H-1	●			オンライン	教室に入ることが出来ない生徒	社会	<a href="#">配信型授業</a>	小テストや授業内容をデータで配信し、併せてキャプチャーボードで電子黒板に映されたPPTXを授業配信する。これにより、教室に入ることができない生徒に対しても、同一の授業を提供する。	教室に入ることが出来ない生徒に対しても授業を提供する。
H-2	●			オンライン	教室に入ることが出来ない生徒	理科	<a href="#">配信型授業</a>	Meetとキャプチャーボードによる授業配信を行う。Meetで参加している生徒には、授業で使用しているワークシートや、フォームによる確認問題などを配信する。	教室に入ることが出来ない生徒や欠席している生徒に対しても授業を提供する
H-3	●			オンライン	教室外で授業を受ける生徒	音楽	<a href="#">配信型授業</a>	Meetとキャプチャーボードによる授業配信に加え、クラスルームに授業内容のPDF形式データを配信する。	教室に入ることが出来ない生徒や欠席している生徒に対しても授業を提供する
H-4	●			オンライン	教室に入ることが出来ない生徒	英語	<a href="#">配信型授業</a>	Meetとキャプチャーボードによる授業配信を行い、Meetで参加している生徒ともコミュニケーションを図る。また、授業内で使用したワークシートや解答をクラスルームに載せる。	教室に入ることが出来ない生徒や欠席している生徒に対しても授業を提供する
H-5	●	●	●	オンライン	教室で授業を受けられなかった生徒/授業内で振り返りを終えられなかった生徒	全教科	<a href="#">振り返り△家庭学習課題</a>	教室外の生徒や未完了者に対し、オンラインで授業内容の振り返りを実施できるようにする。これにより、学習機会を確保し、学習の定着を図る。	いつでも、どこでも学んだことを振り返られる
H-6	●	●	●	オンライン	何らかの理由で、教室で授業が受けられない生徒	全教科	<a href="#">オンライン配信授業</a>	毎日、毎時間、全ての授業をオンラインで配信する。不登校生徒、校内の教室外にいる生徒、体調不良、入院等で授業が受けられない生徒が授業を受けられるようにする。	教室で授業が受けられない生徒の学びを保障することができる
Z-1				DSTP	全ての生徒	全教育課程	<a href="#">DSTP授業チェック</a>	全ての生徒が資質・能力を向上できるように、ユニバーサルデザインの視点で授業に関するチェックリストを作成し、教科をこえてDSTPアクションを行えるようにする。	ユニバーサルデザインの視点で全ての生徒が資質・能力を向上できるように授業をめざす

No	個別最適	協同的	家庭学習	用途	対象生徒	教科	施策名	アクション説明	ねらい
Z-2				DSTP	全ての生徒	全教育課程	<a href="#"><u>全生徒「さん」づけ</u></a>	相手を一個人として尊重し、敬意をもって接するための呼びかけ方として、全員を「さん」付けで呼ぶ。	人権の尊重と公平性の確保
Z-3	•			DSTP	コミュニケーションを取られない生徒 調子を崩している生徒	全教科	<a href="#"><u>一日7はい運動</u></a>	朝学活、毎時間の授業冒頭で全員呼名をして返事をさせ、教員はその表情も確認する(返事の徹底と表情の確認を徹底する)。	生徒の声・表情から生徒の様子を把握する。教員とのコミュニケーションの場にする。
Z-4	•	•		DSTP	運動会能力に関係なく全ての生徒	特別活動	<a href="#"><u>運動会種目：チャレンジ「投」</u></a>	本校では多くの中学校が運動会種目や行進で求める「より速く、より強く、よりそろえて」以上に「より楽しく、多様性を認めて」を大事にしており、その象徴的な種目の1つが「チャレンジ投」である。	結果の未確定を保障した競技で運動能力に関係なく運動を楽しむ

No	用途	対象生徒	施策名	アクションの説明	ねらい
a-1	悩み解消	定期考查を何らかの理由で教室で受けられない生徒／全教科受けられない生徒	<a href="#">定期考查「選択」受験</a>	定期考查を教室外で受験したい生徒に対し、受験教科や場所を選択可能とする。本校は教室外受験のために1つの教室を準備しており、これにより、個々の実態に応じた受験環境を提供する。	生徒の実態に合わせて定期考查を受ける場所、教科を選択できる
a-2	悩み解消	不安を抱えている生徒／いじめを受けている生徒／直接大人へ訴えるのが難しい生徒	<a href="#">生活アンケートの活用</a>	生徒の生活面での不安やいじめ等の深刻な悩みを定期的に把握する。これを全教員で共有できる仕組みを構築し、早期かつ組織的な生徒支援につなげる。	生徒の不安や悩みの早期発見・早期対応
a-3	悩み解消	長期休み明けで登校に不安を感じている生徒	<a href="#">長期休業中の心境アンケート活用</a>	長期休業明けの登校不安を事前に把握し、全教員で情報を共有する仕組みを構築する。その上で、不安を抱える生徒への個別支援体制を構築する。	新学期に向けた生徒の不安や悩みの早期発見・早期対応
a-4	悩み解消	学校生活の中で直接伝えづらい不安や悩みを抱えている生徒	<a href="#">ほうれんそうフォームの活用</a>	生徒が直接伝えづらいことについて、オンラインで「報告・連絡・相談」を行うことができる。	生徒の学校生活の中で直接伝えづらい不安や悩みの早期発見・早期対応
a-5	悩み解消	心と体の悩みや不安を抱えている生徒	<a href="#">ココカラ相談フォームの活用</a>	生徒が直接伝えづらい、心と体の悩みや不安、困りごとをオンラインで相談できるようにする。	学校生活の中で直接伝えづらい心と体の悩みや不安、困りごとの早期発見・早期対応
b-1	状況把握	学級集団の中で課題がある生徒／いじめを受けている生徒／不適応傾向のある生徒	<a href="#">WEB QUの活用</a>	QUアンケート結果を全教員で共有する場を設ける。生徒の学級満足度や意欲の実態を客観的に把握し、これを基に生徒の実態に合った教育活動を行う。	生徒の特性等を把握し学年・学級経営や生徒対応に活かし安心安全な生活につなげる
b-2	状況把握	学校または家庭で潜在的な課題を抱える生徒／個別支援を必要とする生徒	<a href="#">生徒実態調査</a>	学期末に生活実態について生徒にアンケートをとり、その変容を見取り、生活面や学習面の向上につなげる。生徒実態調査を定期的に実施し、生徒の学習および学校内外の生活におけるつまずきや苦手感をデータとして把握する。	生徒の見えない実態を把握し、指導支援に生かす
c-1	多様性（苦手克服）	教室に入ることができない生徒／集団の中にいづらい生徒	<a href="#">SBSルームの方針</a>	教室に入ることができない、集団の中に居続けることが辛い生徒が、自分のペースで自分の課題に合った活動を行えるようにする。	誰一人取り残さない居場所づくり、不登校対策・支援
d-1	多様性（言語対応）	日本語の習得が不十分で学校生活や学習に困難を示している生徒	<a href="#">ことバルの活用</a>	日本語の習得が不十分な生徒が、授業や面談時にことバル（タブレット翻訳機）を使用する。	日本語の習得が不十分で学校生活に困難を示す生徒が、安心して学校生活を送れる
e-1	多様性（価値順応）	自分に取って最も快適と感じる服装を自ら選択できる	<a href="#">標準服選択制</a>	標準服をAタイプ・Bタイプ（夏服・冬服）を男女関係なく選択できる。これにより、性の多様性や個人の主体性を尊重する。	服装の面で性の多様性や個性を尊重する
e-2	多様性（価値順応）	多様な価値観を高めたい生徒／自律的な行動を身に付ける必要のある生徒	<a href="#">校則一本化</a>	令和元年度から時代にそぐわない細則を撤廃し、校則を「Be Gentleman～紳士であれ～」に一本化する。「あじみこし」（あいさつ、時間、身だしなみ、言葉遣い、姿勢）を基に自律を促し、全生徒の安心安全が保障された中での学びを追求する。	多様な価値観がある時代に合わせて、人権に配慮をし、生徒の自律を促す
e-3	多様性（価値順応）	集団になじめない生徒／耳からの情報理解が不得手な生徒	<a href="#">オンライン朝礼</a>	朝礼をオンライン化し、校長講話を印刷物として全員に配布する。これにより、集団になじめない生徒の負担を軽減し、聴覚からの情報理解が不得手な生徒にも内容を保障する。	集団になじめない生徒や視覚優位の生徒への配慮
e-4	多様性（価値順応）	学校内だけでは解決が難しい課題を抱えている生徒	<a href="#">関係諸機関一覧の全体共有</a>	関係諸機関一覧を校区マップで共有し、チーム学校構築に向けた校内研修を実施した。また、これらの機関をつなぐSSW（スクールソーシャルワーカー）を含めた連携のあり方のモデルも学ぶ。	生徒支援の連携体制を強化する
f-1	保護者対応	不登校の状態にある、またはその傾向にある生徒	<a href="#">another保護者会</a>	学校や教室に居づらさを感じる生徒の保護者を対象とした保護者会を開催する。福祉関係者としてSSW（スクールソーシャルワーカー）も参加を依頼し、学校と福祉関係者を交えたネットワークを構築する。	学校・福祉関係者・保護者同士のネットワークを構築する

No	用途	対象生徒	施策名	アクションの説明	ねらい
f-2	保護者対応	家庭の事情で保護者の来校が困難な生徒／家から出られないなど個別支援が必要な生徒	<a href="#"><b>オンライン三者面談 ハイブリッド保護者会</b></a>	学校外でもオンラインを活用した三者面談や保護者会などの教育活動に参加できる。三者面談のオンライン実施と保護者会のハイブリッド開催により、保護者の参加負担を軽減する。	保護者の方が、学校外でもオンラインで三者面談や保護者会などの教育活動に参加できる
f-3	保護者対応	不登校の状態にある生徒／個別支援を継続的に必要とする生徒	<a href="#"><b>不登校保護者ネットワーク</b></a>	学校や教室に居づらさを感じる生徒の保護者を対象としたネットワークを、学校と家庭、地域をつなぐ教育現場向けの連絡システムを活用し構築する。定期的に学校側から有益な情報を定期的に発信する。	保護者間の連携と支援を維持・強化する
f-4	保護者対応	家計に配慮が必要な生徒／全ての生徒	<a href="#"><b>教材費の保護者負担軽減</b></a>	全教員で私費教材を見直し、保護者の経済的負担を軽減する。教材を選定する際は、その費用と効果を明確にし、最終的には管理職が決済を下す仕組みとする。	副教材の購入を必要最低限に抑えることで、保護者の方の家庭の負担軽減を図る